



吉田流太刀盛りを受け継ぐ 盤師として活躍

長谷川 光義さん (若小玉・63歳)

漆をつけた日本刀を盤面に押し付け、刀の反りを利用して碁盤・将棋盤に目盛りを引く「太刀盛り」。初代吉田寅義が確立した太刀盛りの技法「吉田流」を受け継ぎ、三代目吉田寅義として活躍している長谷川光義さんを紹介します。

初代に弟子入りし、二代目吉田寅義を襲名した父・長谷川菊雄さんの仕事ぶりを幼い頃からそばで見ていた長谷川さんは「父のように人に喜ばれ、後の時代に残る仕事をしたい」と高校卒業後に盤師の道を目指しました。初代が苦労して編み出した技法を身につけるための修業は厳しいものでした。「なぜこんなことができないのか」と悔しい思いもしましたが「天才はすぐには習得するまでに時間が掛かる。しかし、遠回りした分、味のある良い仕事ができるというものだ」という尊敬する父の愛情あふれる言葉を支えにして、より良いものを作りたいと碁盤・将棋盤製作に打ち込んできました。そして、50歳を過ぎた頃からようやく自身が思い描



くものを形にすることができるようになってきたそうです。

長谷川さんの碁盤・将棋盤は材料となる榎の原木の選定から始まり、太刀盛りによる盤面への目盛り付けまで機械を使わずにすべて手作りで行います。「樹齢数百年の木に恥じないよう、一面一面心を込めて作ります。刀先に、心を入れて、目盛りを引くことで、盤に命が吹き込まれるかのように感じます」と製作への思いを語ります。長谷川さんが手掛けた碁盤・将棋盤はプロにも愛用されており、第73期本因坊戦や第43期棋王戦など囲碁や将棋のタイトル戦でも使われています。また、平成24年に二代目とともに「碁盤製作技術吉田流太刀盛り」が市指定無形文化財の保持者として認定された他、長谷川さんは平成28年には彩の国優秀技能者として表彰されました。こうした中、今年5月に来日していた中国の李克強首相へ安倍首相を通して長谷川さんの碁盤が贈られたそうです。

現在、碁盤・将棋盤の全工程を手作りで仕上げます。盤師は少なくなっていきます。そこで、作品展を開き、太刀盛りの実演を行ったり、囲碁人口が日本よりも多い中国を訪れて個展を開いたり、国際的な文化交流も行っている長谷川さん。「伝統技術を後世に伝えるため、次男の四代目に技術を継承するだけでなく、多くの人たちに興味を持ってもらえるように、できることは何でも取り組みたいです」と熟練の技を持つ匠でありながら、今なお挑戦し続ける姿勢に力強さを感じました。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

俳句	少年の指しなやかに祭笛	矢場	鈴木かづの
	卯波立つ祠に赤き祈願旗	高田みつ子	
	ガラス戸に命のリズム雨蛙	須加 須加 弘子	
	愚痴こぼす人と聞く人夕端居	須加 須加 信子	
	幼な児は単人の気概立葵	持田 荻原 義久	
	さくらんぼくるむ地方紙読み聴る	持田 小倉 繁三	
	明り易し初収穫の借農園	齋条 小林 英与	
	傷心のペダル漕ぐ背に青田風	荒木 藤田 明枝	
	余生なほ洒落て生きよと薄衣	城南 橋本千枝子	
	梅雨晴間ウッドデッキの午後三時		(三沢 一水 監修)
	父の日や期日指定の宅急便	長野 吉田 正子	
	空蟬のしかと抱へし大樹かな	持田 丸山 麟一	
	青時雨空海像の目に涙	西新町 青木 泰山	
	ほたる狩幼き頃の神田川	佐間 田中 晋	
	父の日や父のひと言胸に生く	荒木 高澤よね子	
	幼子をそとと眠らすおじぎそう	持田 池田 脩	
	羅の胸のさざ波おさめつゝ	忍 大澤 由子	
	夕暮れの虹追いかけて子等走る	旭町 大川 恵子	
	喪に籠る我を横目に梅雨の蝶	南河原 今村 文女	
	卒寿にて車運転卒業す	長野 石川 順一	

はじめまして

平成29年10月生まれのお子さんを募集します

○8月1日水～31日金に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線322)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、9月3日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成29年 8月生まれのおともだち ★★★



安田 美穂ちゃん(栄町)
平成29年8月31日生まれ
父・陽祐さん 母・那津美さん
「元気がいっぱい笑顔いっぱい
すてきな女の子になってね」



飯田 惺太ちゃん(門井町)
平成29年8月28日生まれ
父・将史さん 母・有美枝さん
「かわいいうる笑顔
だーいすき♡♡♡」



島村 晃陽ちゃん(持田)
平成29年8月19日生まれ
父・貴裕さん 母・咲さん
「生まれてきてくれて
ありがとう♡」



石田 結太ちゃん(前倉)
平成29年8月15日生まれ
父・広和さん 母・紀恵さん
「キミの笑顔でみんな幸せ♡」



川上 結翔ちゃん(佐間)
平成29年8月4日生まれ
父・智大さん 母・未樹さん
「元気に笑顔で
大きくなあれ♡」



堀口 碧仁ちゃん(荒木)
平成29年8月15日生まれ
父・大輔さん 母・沙友里さん
「にっこり元気で
我が家の宝物♡」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

有限会社 トミタ自動車

信頼と確かな技術で安心・安全なカーライフをサポート



会社プロフィール

代表取締役 富田 将弘
【事業内容】自動車販売、整備、钣金塗装、保険、福祉車両のメンテナンスなど
【所在地】埼玉5435-11

自動車の頼れる安心パートナーとして、快適なカーライフをまるごとサポートできるよう、サービスを提供しているのが有限会社トミタ自動車です。
創業は昭和50年。先代の社長である富田久雄さんが都内などの自動車整備工場で経験を積んだ後、独立し現在の場所です事業を始めました。現在は2代目社長である息子の将弘さんを中心に8人で自動車の販売から整備、钣金塗装など幅広く行っています。1年間に修理や車検など請け負う車の台数は約850台にもなり、3人の整備士の安心・安全に一切妥協しない丁寧な仕事によって顧客から信頼を得ています。近年では、介護事業者などが使用する福祉車両のメンテナンスや普通車のリース販売も好評とのこと。「車が故障し止まってしまった時は、すぐに駆け付けます。お客様の不安を少しでも取り除くことができ、喜んでもらえたことが信頼につながっていると思っています。」

今、自動車業界は大きな過渡期を迎えています。行田から仙台まで行ったこともありました」と代表取締役の将弘さんは話します。
今、自動車業界は大きな過渡期を迎えています。自動車の安全性が向上したことにより買い替えや事故も減少し、少子高齢化とともに若者の自動車離れが進むなど、非常に厳しい状況が続いているそうです。また、従来のエンジン車から環境に優しい電気を使用した自動車の普及や自動車自体がインターネットに接続されることによって提供される新たなサービスなど、自動車業界の変化は著しい状況です。同社ではこれらを新たなビジネスチャンスと捉え、先んじて対応すべくアンテナを高く張って情報収集に努め、整備士の技術の向上にも力を入れています。「自動車へのニーズの変化にも対応できるトータル的なサービスの提供が当社の強みです」と話す富田社長に揺るぎない信頼とチャレンジ精神を強く感じる事ができました。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。